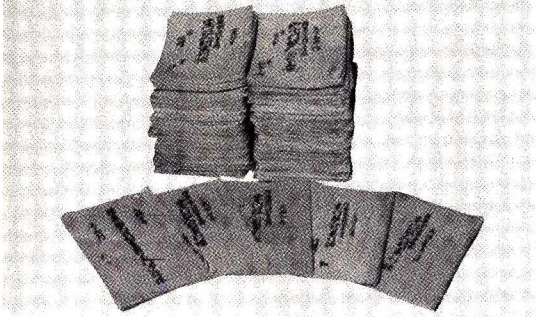
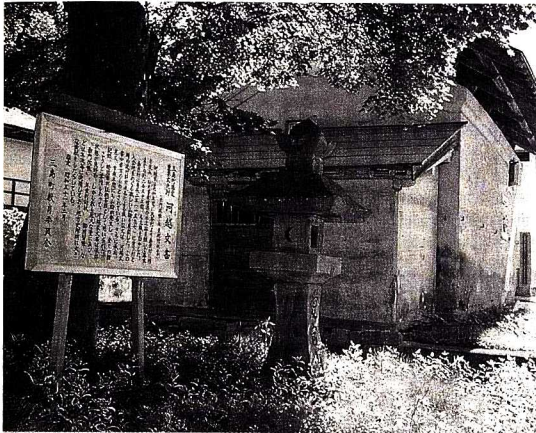


江戸時代になると三島町は、徳川幕府の直接の領地になります。この地方を「御蔵入り」というのは、このことを言います。ときには、会津藩が幕府のかわりに支配したこともあります。



みなさんの地区は江戸時代は「村」と呼ばれました。

松原の古い呼び方は「奥州・南山御蔵入り領・金山卿・滝谷組・松原村」です。

このころの町のは中心は、滝谷と大谷にありました。

住民は農家で「百姓」と呼ばれました。

山にかこまれて、田の少ないこの地方では、米は

少ししかとれず、ヒエ・アワ・ソバや山菜などを食べていました。養蚕・おり物（わた・あさ・からむし）・うるし（ろうそく）・たばこなどが作られていました。山の木は、すぎ・けやき・くり・とちなどが、木材・炭・まきや食べ物（実）として利用されました。きりの木は特産でした。

